

# 東京蜘蛛 談話会通信

(2000年9月24日)

編集：佐岡文雄

印刷：本誌・付録・東京都墨田区光プリンター

No.

100

since 1974

## 2000年度 メモリアル採集観察会

1. 場 所 東京都町田市 都立小山田緑地

2. 日 時 第3回 10月15日 (日)

雨天決行

(以後 最終回 2001年2月18日 (日))

3. 集 合 小田急線「町田」駅バスセンター 12番乗り場 10時10分

10時22分発 神奈川中央交通「小山田」行きに乗り、  
「大泉寺」バス停で下車。

10時22分発以降のダイヤ 11時42分 (1時間に1本程度)  
所要時間 約30分 運賃片道 280円

4. コース 大泉寺バス停より、小山田緑地へ。昼食は小山田の谷 (トイレ・水場有) の予定。ただし売店はないため、弁当は用意しておいてください。

5. 世話人 今井正巳 (Tel 042-755-3086)

# 東京蜘蛛談話会 12月例会

1. 日 時 2000年12月10日(日) 10:00~(開館9:00より)

2. 場 所 相模原市立産業会館 大研修室A(3F)

〒229-0039 相模原市中央3-12-1 Tel. 042-768-2311

3. 行き方

(1) JR相模原駅下車  
(7~8分)

1番バス乗り場の全てのバス	市民会館前 下車徒歩
2番バス乗り場	市役所前 下車徒歩
3番バス乗り場 大野台経由相模大野行	

**市民会館前 下車徒歩**

(2) 小田急線相模大野駅下車

(30分ほど) 5番バス乗り場 「相02」 鶴の森経由相模原駅行き  
「相06」 鶴の森(古淵)経由相模原駅行き

**警察前 下車徒歩**

ちょっと遠回り

(40分~)

4番バス乗り場 「相05」 大野台経由相模原駅行き	市民会館前 下車徒歩
---------------------------	------------

1番バス乗り場 「相25」 北里大学経由相模原駅行き

**市役所前 下車徒歩**

(3) 徒歩向き

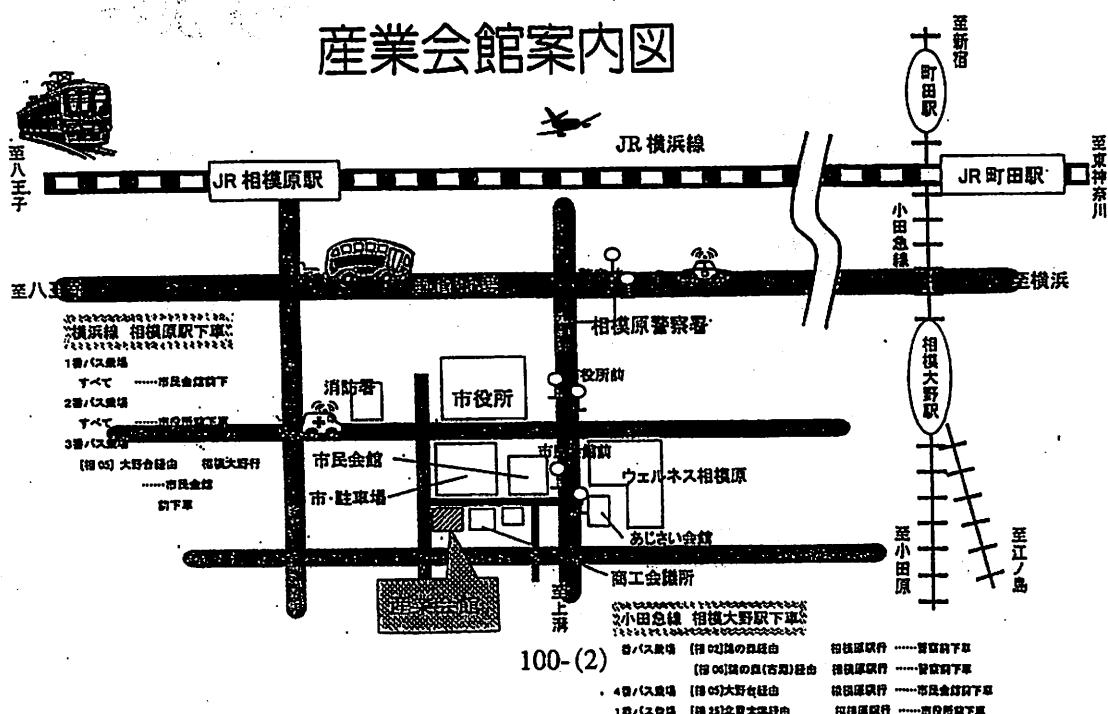
JR相模原駅下車 徒歩20分

4. 発表方法

ビデオプロジェクターが利用できます。

- ・スライド
- ・ビデオ
- ・实物投影

## 産業会館案内図



同封のハガキにて、近況などを事務局・今井まで。近況は談話会通信に掲載します。また準備の関係で、17:00以降開催の予定の懇親会への出欠予定もお知らせください。当日変更されてもかまいませんので、よろしくお願ひします。

## 表

## 裏

50	229-0038
相模原市星が丘	
1-5-5	
今井正巳 宛	

--

住所・氏名

例会に(出席・欠席)

懇親会に(出席・欠席)

講演(有・無)

演題

近況

ジョロウグモだより

野崎文江

○2000年5月4日(木) 晴れ 午前6時 10℃

昨年11月26日に親が門柱の扇のつけねに作った生んだ? 卵のうどうなっているか観察。まだかえっていない。朝の最低気温が低い。3日の午後気温20.5℃だったのが寒冷前線が通過した為さがったのだ。

○5月5日(金) 晴れ 午前6時 9℃

まだ卵のうはそのまま、子がかえった様子がない、寒いので気になり、紙コップに卵のうを入れて、暖かい家の棚の上に置く。気温20℃。

○5月14日(日) 雨 午前4時 16℃

11日以来曇りの日が続き日中でも20度以下の気温。家の中なので気温は23℃、まだ子グモが卵のうの中から出てこない。すこし心配になり、卵のうを少しあけて見た。いたいた。1mmぐらいのクモがケシ粒ぐらい。かたまって卵のうの中にかえっていた。1000匹ぐらいはかえっていたようだ。かぞえられないくらいの数、あわてて卵のうを開じる。小さいので自力で外にでることが出来ないようだ。卵のうの大きさは、私の小指位鳥の雛が卵からかえる時自力で殻を破って外へ出て来るのと同じようにクモも自力で外に出て来るほうがいいと思った。

○5月25日(日) 雨 午前6時30分 16.8℃

22日から午後の気温が25℃ぐらいまで上昇してきたがまだ午前の気温は15℃前後。家の中は20℃卵のうの中のまゆの繊維をたどって? 外へ子グモがでてきた。そして紙コップの底にかたまっていた。かえった。卵のうの中には一匹の子グモもいなかつた。卵のうの大きさは約1.2cm。中は蚕の真綿のような繊維でふわふわ、羽布団のようにぬくといいう言葉で表現するしかないやわらかさ。凍りつく冬の寒さの中で、かえって生きていることができると思った。親が卵のうをつくる場所も雨や風に当たらない物陰に、沙羅に上に糸でしっかりとくくりつけるように固定していたこと、親グモの思いやりに感動した。また子グモが気温が24℃以上になると卵のうの中は温度があがって暑くなるので外にでるのでないかと思った。クモの生存本能のようなものを感じた。人間には押しつかれない。

(原文ママ)

# 都立小山田緑地採集観察会報告

世話人：今井正巳

第1回 2000年5月21日（日）

参加者：赤羽尚夫、池田博明、泉 宏子、井出和美、今井正巳、小川智行、小川由里子、笠原喜久雄、木村知之、工藤泰恵、黒沼春子、小峰光弘、貞元己良、佐藤幸子、新海 明、高橋 登、谷田光弘、千田高史、萩本朋洋、萩本房枝、初芝 涼、伴 満、日置乃武子、本間 征、安田明雄、八幡明彦、和仁道大

（27名：敬称略 50音順）

アオオニグモF、アオオビハエトリFM、アオグロハシリグモn、アサヒエビグモn、アシナガグモfMn、アズチグモn、アズマキシダグモn、アライトコモリグモFe、アリグモFMn、イオウイハシリグモf、イナダハリゲコモリグモFM、イナヅマハエトリn、ウズグモf、ウツキコモリグモn、ウロコアシナガグモM、エキスハエトリF、エビチャヨリメケムリグモF、オオシロカネグモn、オオツリガネヒメグモFM、オオハエトリF、オオヒメグモFMn、オオヤミイロカニグモM、オナガグモmn、オニグモFM、カタオカハエトリm、カタハリウズグモn、カニミジングモMn、カネコトタテグモF、カバキコマチグモn、カラオニグモn、カラスハエトリf、カラフトオニグモF、キハダエビグモF、キハダカニグモM、キベリミジングモFMf、キララシロカネグモn、ギンメッキゴミグモFn、クサグモn、クラークコモリグモFMe、クロヤチグモFn、コアカクロミジングモMn、コアシダカグモM、コクサグモn、コケヒメグモFn、コシロカネグモFM、コハナグモn、ゴミグモFM、コンピラヒメグモm、ササグモMn、サツマノミダマシn、ジグモf、シボグモn、シモフリミジングモMm、シャコグモFn、ジョロウグモn、シラホシコグチャハエトリF f、シロカネイソウロウグモn、シロスジショウジョウグモF、スジアカハシリグモn、スソグロサラグモM、スネグロオチバヒメグモm、セマルトラフカニグモmn、センショウグモme、チャイロアサヒハエトリn、チュウガタコガネグモn、チリイソウロウグモn、ツクネグモF、ツリガネヒメグモFM、デーニツツハエトリFM、ヌサオニグモm、ネコグモFM、ネコハエトリM、ハイイロヒメグモF、ハツリグモf m、ハナグモn、バラギヒメグモFMn、ハラビロミドリオニグモn、ハリゲコモリグモFMe、ヒメグモn、ヒラタグモMn、ヒロハヒメグモF、ヘリジロサラグモF、ボカシミジングモMn、マイコフクログモF、マネキグモn、マミジロハエトリF、ミスジハエトリF、ムツボシオニグモM、ムラクモヒシガタグモn、メガネドヨウグモn、ヤエンオニグモn、ヤギヌマフクログモn、ヤサアリグモF f、ヤマジグモF、ヤマシロオニグモn、ヤミイロカニグモFM、ヤリグモF f、ユウレイグモFM、ヨダンハエトリFMf、ヨツデゴミグモFM、ワカバグモFM

（101種）

第2回 2000年7月2日(日)

参加者：秋元椎那、秋元 登、浅間 茂、池田博明、井出和美、今井正巳、  
唐沢良子、木村知之、黒沼春子、小峰光弘、笹岡文雄、貞元実菜子、貞元己良、  
佐藤幸子、新海 明、高橋 登、谷川明男、谷田光弘、中島繁男、中島晴子、  
新村 誠、伴 満、安田明雄、八幡明彦、和仁道大

(25名：敬称略 50音順)

アオオニグモF、アオオビハエトリFM、アサヒエビグモm、アシナガグモF、  
アシブトヒメグモf、アズチグモfn、アリグモFe、イオウイハシリグモFn e、  
ウズグモF、ウデブトハエトリF、ウロコアシナガグモF、オオシロカネグモn、  
オオトリノフンドマシn、オオヒメグモFMn e、オスクロハエトリM、オナガグモFe、  
オニグモFn、カグヤヒメグモF、ガザミグモF、カタオカハエトリM、  
カタハリウズグモFn、カニミジングモn、カネコトタテグモFn、カラカニグモM、  
キハダエビグモF、キヒメグモF、キララシロカネグモn、ギンメッキゴミグモFn、  
クサグモfm、クロマルイソウロウグモFe、クロミジングモF、コガタコガネグモn、  
コアカクロミジングモMn、コアシダカグモM、コクサグモn、コケヒメグモFn、  
コガネグモf、コクサグモn、コシロカネグモFM、コハナグモFe、ゴミグモF、  
コンピラヒメグモF、ササグモMn、サツマノミダマシFmn、ジグモFn、シボグモn、  
シャコグモFn、ジョロウグモn、シロオビトリノフンドマシn、  
シロカネイソウロウグモF、ズグロオニグモF、スズミグモf、  
セマルトラフカニグモF、センショウグモFMe、チビコモリグモFe、  
チャイロアサヒハエトリFMn、チュウガタコガネグモF、チリイソウロウグモfn、  
ツノナガイソウロウグモFe、ツリガネヒメグモFe、デニニツツハエトリF、  
トラフカニグモFe、トリノフンドマシn、ナガコガネグモn、ヌサオニグモF、  
ネコハエトリF、ハツリグモFe、ハナグモFn e、  
バラギヒメグモFn e、ビジョオニグモn、ヒメカラスハエトリM、ヒメグモFn、  
ヒラタグモn、フタオイソウロウグモF、ヘリジロサラグモFM、マツモトハエトリFM、  
マミジロハエトリFn e、ミスジハエトリf、ムツボシオニグモF、ムナボシヒメグモF、  
ムラクモヒシガタグモF、ヤサアリグモFM、ヤサガタアシナガグモF、  
ヤサコマチグモM、ヤハズハエトリM、ヤマジグモFe、ヤマシロオニグモFMn、  
ヤミイロカニグモF M fm、ヤリグモF、ユウレイグモFn e、ヨダンハエトリFM、  
ヨツデゴミグモe、ワカバグモn、ワキグロサツマノミダマシn

(90種)

#### 略号

F・♀成体 M・♂成体 f・♀幼体 m・♂幼体 n・雌雄不明幼体 e・卵

## 大井川合宿報告

### 杉林のキジロオヒキグモ

新海 明

「ログハウスおろくば」という宿舎は尾根すじに建っていた。クモの種類はまあまあであったが、いまひとつピンとこない場所だった。天候のせいもあろうが全体的に乾きすぎていたのだ。

合宿2日目の午後に、尾根すじを離れて初めて大井川沿いの林道に調査地を移した。小さな沢もあり、「ここならば！」という感じだった。歩きだしてすぐの林道の入口にあつた廃屋の裏手の軒下にスズミグモが網を張っていた。ここは静岡。いてもあたりまえか。しばらく行くとまたスズミがいたとのことで、皆が集まっていた。こちらの方が網も大きく立派だった。さらに沢すじにはヨリメグモやドヨウグモ類もいた。そして、案の定ナルコグモの網が水面に漂っていた。吉田さんや船曳さんらに声をかけて鳴る子網の観察会をはじめた。初めはどこにあるのかやはり判らなかったようだが、ちょっとしたポイントをつかんだら容易に区別できたようだ。もとの林道にもどると、今度はトゲグモがとれたとのことだった。長い竿を利用して樹間に張られたトゲグモを探集していた。10頭以上はいたようだった。

例によって、私は列の末尾からだらだらとくっついて歩いていたのだが、やがて皆が引き返してきた「マイチ面白くないか」といったところのようだった。集合時間までには間があったので、もう少し足をのばすことにした。林道の脇にまたトゲグモの網があった。飾りが周囲についている。・・・とその背後の杉の木の横手にある大きな円網が目に入った。近付くとでかいゴミグモの一種が！！！ではなかった。キジロオヒキグモだった。林道を引き返していく皆を呼び集めて、ここに大撮影会がはじまった。「こういうのが出ると合宿に来た気がするね」とは浅間さんの弁。キジロオヒキは八幡さんが持ち帰り飼育に挑戦することだった。卵のうはつけてなかったが、卵がたっぷり詰まっている大きな腹をしたメスであった。「キジロオヒキは杉林によくいるね」とは一同の感想。そういえば杉のない沖縄でも藪の中や樹下の陰でみかけた。日当たりの良い場所が苦手なクモなのかもしれない。

会誌編集：木村知之 〒192-0917 東京都八王子市西片倉2-6-16 ラベニール210  
原稿送付：池田博明 〒258-0018 神奈川県足柄上郡大井町金手1099  
e-mail: fwgd9084@mb.infoweb.ne.jp

通信編集：笹岡文雄 〒170-0004 東京都豊島区北大塚3-12-21

## 公開シンポジウム『クモ類の多様性と進化』に続いて

日本蜘蛛学会第32回大会東京で開催！！

平成12年8月24日（木）、国立科学博物館分館（新宿区百人町）にて、進化多様性生物学研究会と日本蜘蛛学会の共催で行われました。

午後1時から3時間のシンポジウムの間に、クモを中心とした6題の講演がなされました。（下記参照）

形態、網の形などを通してクモの多様性を幅広く検討されました。そして現在のクモの分類などについて活発に討論も行われました。

また唯一のハチ類を通した多様性の問題は、ベッコウバチの多様化とその餌としてのクモの多様化がリンクしているのではないかという発表がなされました。

クモ学にかぎらず生物の多様性の問題は、今後ますます研究が進んでゆく分野だと思われます。

### 講演内容

（開会挨拶：吉田 真日本蜘蛛学会会長）

「クモにおいては、なにが、どう多様か」 小野展嗣

「原始的なハエトリグモの特徴とは何か」 池田博明

「ベッコウバチ科の各属とそれらの寄主（獲物）となるクモの科との関係」 清水 晃

「クモ類における性サイズ二型の多様性と進化」 桧元敏也

「系統推定の結果から判断して、カラフトオニグモやサガオニグモは Zilla 属ではなく Eriophora 属に所属させるべきである」 谷川明男

「クモ類の進化を網のかたちから探る ——網型と捕食行動からみたクモ類の進化」

新海栄一

日本蜘蛛学会第32回大会は8月25日（金）～27日（日）の3日、東京大学山上会館（文京区本郷）にて開催されました。東京では1996年以来、4年ぶりの開催となります。

25日のビデオ上映会（2タイトル）に始まり、翌26日は2テーマによるシンポジウム、27日口頭発表、ポスター発表へと続きました。

北海道から沖縄、海外は大韓民国から約70名の研究者、また多くのアマチュア蜘蛛研究家が参加しました。

次回大会は沖縄県にて、2001年8月（日付・会場等の詳細未定）に行われます。また次々回2002年はクモ合戦で有名な鹿児島県加治木町で行われることになっていました。

### ○シンポジウム1 クモの採餌戦略の可塑性

「造網性クモ類の網構造の可塑性とその機能」 渡部 健

「ギンメックゴミグモを用いた採餌戦略理論とその実証」 中田兼介

（2題）

## ○シンポジウム2 食物網のなかのクモ

「系外資源の移流による補償効果が森林生態系における造網性クモ類群集に及ぼす影響」

加藤千佳

「クモ狩りスペシャリストがつくりだす食物網の局所的空間構造の可能性」遠藤知二

(2題)

### ●口頭発表

「ヒトハリザトウムシにおけるB染色体数の地理的変異と奇数・偶数効果」鶴崎展巨

「カグヤヒメグモとその近縁種」吉田 哉

「セアカゴケグモをはじめとする日本産ゴケグモ属諸種の分類」小野展嗣

「オダカニウレイグモの新産地とほかのクモとの混在」入江照雄

「*Ariadna laterilio*(ミヤグモ)と *Oligotoma saundersii*(シロアリモドキ)」萱嶋 泉

「沖縄島のヤマトウシオグモとイソタナグモ」佐々木健志

「谷津のクモの分布」浅間 茂

「蜘蛛の糸は本当に強いのか?」大崎茂芳

「餌虫がオオヒメグモの過冷却点に及ぼす影響」田中一裕

「アシナガグモ科4種の生活史」吉田 真

「雌の存在がアリグモ雄間の闘争に及ぼす影響」樹元敏也

「ヤチグモ類の交接行動」下謝名松栄

「奄美大島のクモ合戦」齊藤慎一郎(英語による発表)

(13題)

### ◎ポスター発表

「ヤミサラグモの一一種における生殖器サイズの変異と地理的分布」井原 庸

「日本国内外のジョロウグモ脚部斑紋型の分布と国内個体のミトコンドリアDNAの型分布との対比」徳本 洋

「A New species of the genus *Alopecosa* simon, 1885 from Korea (Araneae: Lycosidae)」

Kim, Jo-o-Pill

「An Unrecorded and rare species of Korean spiders」 Kim, Jo-o-Pill

「コガネヒメグモの子の保護の適応的意義」長崎綠子

「アマギエビスグモにおける卵嚢保護の効果」二見恭子

「イソウロウグモと寄主の群集動態」宮下 直

「成熟後脱皮したウツキコモリグモの電顕像」藤井靖浩

(8題)

## 談話会通信 100号に寄せて

松本誠治

談話会通信が100号になるとのこと、まさに「継続は力なり」と、感無量です。談話会通信を発行する事にしたのは、KISHIDAIAの発行が頻繁ではなくなったのが最大の理由だったと思います。1974年当時は、私も若かったので、「談話会」なのだから会員が全員で談話をすることが大切で、記録性のある内容のものはクモ学会の補助機関誌ATYPUSに掲載してもらえばいい、などと考えていたからです。当時小回りのきく印刷物を私が作るとすれば、ガリ版しかありませんでした（ガリ版：ヤスリ板版と鉄筆でロウ原紙に穴を開けて、孔版印刷の製版をする方法）。このガリ版は、八木沼健夫先生がATYPUSを発行するのに使った方法ですし、近藤昭夫先生が教材や年賀状を作った方法でもあり、簡易印刷の主流でした。簡易印刷と言っても梅林力先生の年賀状のようにガリ版によるカラー印刷は素晴らしいものです。ワードプロセッサによるものでは、どんなにきれいで綺っていても、機械がやっていることなので、ガリ版のカラー印刷の年賀状を手にした時ほどの感激はありません。とは言っても通信をガリ版に戻せと言っているではありません！

---

## 好き兄「談話会通信」と弟「まどい」

中部蜘蛛懇談会書記 板倉泰弘

「談話会通信」100号おめでとうございます。私自身も1987年に臨時に作成に携わったことがありますので喜びは一塩であります。当時、大学の先輩の荻本さんにご指導を頂きながら、見よう見まねで作成しました。「談話会通信」（以下「通信」）は59号から手書きからワープロ打ちにしたのを記憶しております。

中部蜘蛛懇談会の「まどい」は「通信」の弟になります。1993年の春、会員数34名だった会を活性化する「会の血液」に、会員増加の原動力にと、「通信」に大きなヒントを頂いて愛知県支部（当時）の機関誌として誕生しました。年に3回「初心者に親切」をモットーに発行しております。1994年の5号から担当された「まどい」の育ての親の小笠原さんと今年の21号から担当されている永井さん、河合さんにお話を伺いました。

### 「ユキエのまどい10の心得」

- ①初心者が取っ付きやすくベテランも楽しめる内容。
- ②500円の準会員会費を納得プライスに。
- ③個人名を多く登場させて読者の顔が見える紙面に。
- ④イラストを多く。
- ⑤編集者自身が書く。
- ⑥もらった原稿は最新の号に掲載。
- ⑦強制するスローガンはNG。
- ⑧素早い情報。

小笠原の原文と異なる。削除

⑨評価は求めない。

⑩手書き、色、ハンコを使う。

そして、何よりも読者の声がいっちゃんです。

（小笠原幸恵）

「まどい」の作成はすべて手作りであるため、ハード面で工夫すべき点を多く抱えている現状です。ソフト面では、準会員が楽しく読める内容を強く意識しながら編集に当たっています。対象の軸足としては正会員よりむしろ準会員であり、テーマとしては「クモ楽」です。皆さん、どうか楽しい原稿を送って頂くことにより「まどい」を応援してください。

（永井 均、河合大海）

東京と中部の会が共々弥栄えていきますよう、「兄弟」仲良く頑張りましょう。

（原文ママ）

#### 情報の交差点

新海 明

東京蜘蛛談話会の「通信」が100号を迎えるとのこと。まずはお喜び申し上げます。過日、編集担当の笹岡さんより「遊絲」と「通信」との対比でなにか書いていただきたいとの依頼がありましたので、その線に沿って書いてみようと思います。

私が通信を初めて手にしたのは42号（1983年）のこと、同期入会者の牧幸匡さんがいました。このころ以降しばらくの間の通信は、新聞や雑誌の切り抜きが多くなり私にとってはあまり面白くないものでした。ただ、当時の編集者は原稿が集まらない中でなんとか発行を維持して下さっていたわけで感謝しております。松本誠治さんが談話会30周年誌に書かれていましたが、通信は「全国にいる会員が如何に談話できるか、談話しているという気持ちになれるか、通信を読んで『東京蜘蛛談話会の会員である』と実感できるか」という趣旨が原点なのだと思います。無論、そのときどきの編集者の姿勢により内容が変化するのは仕方ありませんし、むしろそれは必要であるとも思っています。私個人の希望としては、クモをめぐるさまざまな情報の連絡誌としての機能を思う存分に發揮していただければと考えています。

実は「遊絲」もほぼ同じような考え方で編集しています。日本蜘蛛学会の会員相互を繋ぐ連絡誌、クモ情報の交差点にしたいと願っています。そうなっているかどうかは読者の判断に委ねなければなりませんが、その方向で頑張りたいと思っています。おそらく、いつのときも編集者の悩みは原稿が集まらないことだと思います。ある程度は依頼することで対処できるでしょうが、やはり最後は自分で書くことが大事なような気がします。せつかく苦労して作ってもあれやこれや言われて割に合わないと嘆くむきもあるでしょうが、あれやこれや言わされた方が進歩もあるでしょう。批判は覚悟のうえで駄文でも一丁仕上ることが、編集子として結構重要な仕事なのかも知れないなどと考えている今日この頃です。

## 100号を迎えて

「談話会通信」編集担当

笛岡文雄

81号から、「談話会通信」の編集を引き受けてから、いつの間にか20号目を出していました。始めた当初は自分が100号の区切りを、製作することになろうとは考えていませんでした。

地方の同好会の通信誌がクモ関係の会以外を含めても100号を迎えるのは希有なことなのではないでしょうか。それは東京蜘蛛談話会の歴史もさることながら、いかに告知する行事が多いかということを表しています。

このように「通信」はもとより会員のみなさんへ、会の諸行事の通知を第一の目的としています。とはいって、そのことだけを書き込んで発送していればいいというわけにはいきません。その記事の空間をいかに埋めていくか、そればかり考えていた20号でした。

記事がなければその分自分が、紙面の空間を埋めなければならないことになるからです。そんな中でたくさんの会員の方々の投稿がいかに嬉しかったか。正直なところ自分の手間が減りますが、「通信」は私の通信誌ではありません。会員のみなさんの通信誌です。編集者ではなく、常に会員みなさんに支えられています。

気の早い話ですがこのペースで行くと2034年2月発行号が200号になります。100号200号といわず、今後ともぜひ「Kishidia」誌以上にお引き立てお願ひします。「Kishidia」誌担当者には内緒の話ですが。

### クモ関係の会の通信誌など

(号数は2000年8月現在)

#### ☆中部蜘蛛懇談会

通信誌「まどい」 年3回 23号 B5判 ほぼ10~16頁

会誌「蜘蛛」(13号まで「会報」) 年1回 32/33号

#### ☆関西クモ研究会

通信誌 特になし。 行事の会員連絡は別に郵便など。

会誌「くものいと」 年2~3回 28号

#### ☆三重クモ談話会

通信誌 特になし。 行事の会員連絡は別に郵便など。

会誌「しのびぐも」 年1回 27号

#### ☆和歌山クモの会

通信誌 特になし。 行事の会員連絡は別に郵便など。

会誌「和歌山クモの会会報」 年1回 6号(1996年現在)

#### ☆日本蜘蛛学会

通信誌「遊絲」 年2回 6号 B5判 11~18頁

会誌「Acta Arachnologica」 年2回 v. 4-8, no. 2

# 談話会通信 解題

## ◎初号発行当初について

1974年「談話会通信」は松本誠治さんの強い意志の元に生まれました。この頃談話会の会員が50名を越え、会員相互のコミュニケーションを密にすることが大きな目的の一つでした。3つの号外(5/13,5/14,9/7付け、3号ともガリ版B5判1枚表裏2頁)を経て、同年10月25日正式に通号のついた「1号」(ガリ版B5判 B4・1枚二折り4頁)が発行されました。したがって通信は今まで100号103回発行されたということになります。

「通信」発行以前は郵便、電話などで松本さん、新海栄一さんが会員への連絡などを行っていました。

## ◎タイトルについて

「談話会通信」が正式名称です(規約3条1項)。一部「談話会つうしん」(no.56,5960など)の表記があります。また63~98号の表記は「東京蜘蛛談話会通信」になっています。

## ◎経費について

かなり長い間、「通信」の製作経費は予算に計上されていません。経費とは紙代、送料、印刷費、封筒などの消耗品費です。

当時の各担当者の方々によりますと、少なくとも送料、消耗品費は会の経費として支払われていたようです。紙代も恐らく会が負担していたようですが、いずれの方も記憶がハッキリしていないく正確なところはわかりません。

決算も「通信」作成費用が他の経費と一緒に項目なっていることが多く、実際の支出の有無、1号当たりの実質経費など、明かではない部分が多く残されています。

42号(1983.6)に掲載されている昭和63年(1988)の予算では、1号あたりの経費を3,000円としていました。現在は(12頁200部)13,000円となっています。

## ◎印刷について

発行当初印刷に使用していたガリ版用具一式は、松本誠治さんがご自分の所有のものを使用していました。むしろ松本さんがそれを所有していたことが、「通信」を生むきっかけの一つでした。

以後印刷はガリ版から、ファックス、軽印刷機と作成方法が変遷していきます。それらはいずれも各担当者の所有物か、個人の伝で借用した機械などでした。それらを使い各担当者が中心となって、版下作成、印刷をおこないました。したがって談話会として長らく「通信」の印刷費は、支出されることはありませんでした。

版下の作成は担当者が依然として行っていますが、81号(1994.5)より印刷そのものは業者に発注することになり、次年度より予算をかならず計上しています。

63号より定着した付録の印刷はその当初から現在まで、当時の担当者だった池田博明さんが続けています。またこれより以前は本誌に掲載されていた切り抜き等の記事類は、付録ということに運用原則にしました。

## ◎形式について

号外から始まってB5判を維持しています。B4サイズを横二つ折にした4ページの構成が基本となっていますので、ページ数はかならず4の倍数です。

また発行当初はB5表裏2ページ立てという形式でした。

◎発送について

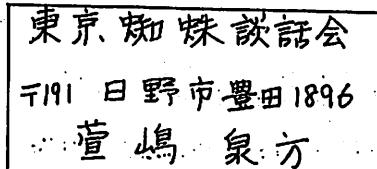
当初は本誌と同様、発送用の封筒の差出人もすべて手書きでした。その後ゴム印になります。これは現在も同じです。一時封筒に家庭用簡易印刷機などで差出人を印刷していました。

宛名はどうしても手書きをしなければならない時期が長く続きました。データベースを利用して宛名を印刷したタックシールを作成するようになるのはここ5年ほどです。

宛名書き、本誌折り、封筒詰めなどの作業は担当者中心に何人の有志がおこなっていました。現在は担当者個人ですべて作業するようになりましたが、基本的にこの体制は変わっていません。

様式

号外初号  
発送封筒 表



新海栄一さん提供

◎発送について その2

現在「通信」は定型大型封筒で発送されています。その定型の郵便料金の最高額(50g 90円)を目安として、ページ数を決定しています。ただし現実的には定期連絡事項、投稿数などから毎号12頁程度になっています。用紙の種類によって幅がありますが、本誌のみであれば最大28ページ程度が上限と思われます(現在最大頁20)。本誌と付録が基本ですが、号によって例会通知ハガキ、会費振込用紙と一緒に発送されますので、その重さも考慮されます。

過去は封書定型料金内に収まる時代が長く続きました。

☆最後に

この100号を出すに当たり、松本誠治さん、中部蜘蛛懇談会の板倉泰弘さんと小笠原幸恵さん、永井均さん、河合大海さんのお三方、本会会員でもいらっしゃいますが、日本蜘蛛学会の新海明さんの皆さんにはお忙しい中、ご寄稿・談話いただきました。特に編者の怠慢で締切まであまり余裕がない中、出稿には大変無理を聞いていただきありがとうございました。

また特に松本さんには不躾にも、色々「通信」創生期当時の話をきかせていただきました。手元にない「通信」のバックナンバーは、新海栄一さん所有のものを拝見させていただき、また同じく「通信」当初のお話を聞いていただきました。さらに鈴木勝浩さん、萩本房枝さんには突然の電話での取材にも、快くお話を下さいました。

皆さんのおかげで、「談話会通信」100号を無事製作する事ができました。最後に紙面を借りまして、厚くお礼申し上げます。

通信編集担当・笹岡文雄

# 談話会通信 「歴史」 年表

年	号 数	世の中の出来事
1974 (昭和49)	号外 5/13, 5/14 (この2号は号数なし) 号外その3、1、2 この頃会員数50名越す	*小野田元少尉 発見さる 封書料金20円
1975 (昭和50)	3、4、5、6、7、8	*沖縄海洋博開催 *紅茶きのこブーム 封書料金50円
1976 (昭和51)	9、11、12、13、14 談話会創立10年 (記念誌は'77発行の Kishidaia no.42)	*ロッキード事件
1977 (昭和52)	15、16、17、18、19、20 ミズグモ36年ぶりの発見 会費支払い郵便振込導入	*王選手本塁打 世界記録達成
1978 (昭和53)	21、22、23、24、25	
1979 (昭和54)	26、27、28、29 この頃会員数100名越す	*インベーターゲーム ブーム
1980 (昭和55)	30、31、32、33	
1981 (昭和56)	34、35、36	*福井謙一ノーベル賞 封書料金60円
1982 (昭和57)	37、38、39	*東北・上越新幹線 開通
1983 (昭和58)	40、41、42、43	*「おしん」高視聴率
1984 (昭和59)	44、45、46、47、48	*コアラ初移入
1985 (昭和60)	49、50、51、52	*つくば博開催
1986 (昭和61)	53、54、55、56 談話会創立20年 (記念誌特になし)	
1987 (昭和62)	57、58、59、60 59号よりワープロ打ちとなる	*国鉄民営化
1988 (昭和63)	61、62、63、64 東亜蜘蛛学会、日本蜘蛛学会に名称変更 63号より付録あり	

1989. (昭和 64・平成元)	65、66、67 写真日本クモ類大図鑑発行 Kishidaia 発刊 20 年 (記念誌はこの年発行の Kishidaia no.58) この年より年 3 回発行に固定	*消費税 3%導入 封書料金 62 円
1990. (平成 2)	68、69、70	* ドイツ統一
1991. (平成 3)	71、72、73	* 湾岸戦争勃発
1992. (平成 4)	74、75、76 日本蜘蛛学会誌「Atypus」100 号にて終刊	
1993. (平成 5)	77、78、79 (no.77 のみ付録なし)	* 皇太子御成婚
1994. (平成 6)	80、81、82 81 号 通信最大の 20 頁	* 大江健三郎ノーベル賞 封書料金 80 円
1995. (平成 7)	83、84、85 八木沼健夫博士死去 ゴケグモ各地で発見、騒動勃発 この頃会員数 200 名越す	* 阪神淡路大震災
1996. (平成 8)	86、87、88 87 号 通信最大の 20 頁 談話会創立 30 年 (記念誌は'99 発行の Kishidaia no.76,77)	
1997. (平成 9)	89、90、91	
1998. (平成 10)	92、93、94	* 長野オリンピック開催
1999. (平成 11)	95、96、97 Kishidaia 発刊 30 年 (記念誌はこの年発行の Kishidaia no.76,77)	
2000. (平成 12)	98、99、100 100 号 通信最大の 20 頁	

各号編集担当者

号外 5/13,5/14, その 3

1 ~ 1 5	松本誠治	4 9 ~ 5 2	(代行・井上房枝)
1 6 ~ 2 6	田中理恵	5 3 ~ 5 8	鈴木勝浩
2 7 ~ 3 4	松浦祐司	5 9 ~ 6 1	板倉泰弘
3 5	(代行・熊田憲一)	6 2	(代行・熊田憲一)
3 6 ~ 4 1	鈴木勝浩	6 3 ~ 8 0	池田博明
4 2	(代行・熊田憲一)	8 1 ~ 1 0 0	笛岡文雄
4 3 ~ 4 8	鈴木勝浩	1 0 1 ~ ?	

この表を作成するに当たり、「Kishidaia」 no. 76 の 新海 明 「東京蜘蛛談話会の活動記録 (1966 - 1999)」の一覧を改変しました。

## 和名と差別語狩り（1）

平松 翠久

今年の春さる調査団の会合に出席したことである。複数の昆虫担当の方々から「今昆虫の和名から差別的な表現のあるものを改めようという動きがある。クモの方はどうですか？」という主旨のことを尋ねられた。一例として『チビメクラゴミムシ』（正確にはそんな和名ではなかったかもしれないが）などというのは最も悪しきものの典型であるという（ちなみにどこが差別的かは筆者が指摘しなくても聰明なる読者の皆さんにはおわかりだろう）。そしてかの有名な『ゴケグモ』も未亡人に対する差別語だとして槍玉に上げられた。この考えを尊重すればチビクロハエトリなどもってのほかと言うことになる。筆者は差別とは関係ないが以前コモリグモをドクグモと言っていた時代があり、実際には致命的な毒があるわけでもないのに誤解を招くという理由で現在の和名になったことなどを話し、「ウスバカゲロウなんかどうなんですかね。薄馬鹿下郎ですよ」と茶化したような事を言ったりした。ここらが筆者の悪い癖である。この時は昆虫で『目』の漢字表記を時代の趨勢からカタカナ表記でわかりやすいものにした時と同じくどうせ流行の一つだろうと軽く考えていた。ましてクモで先進的な差別語排除の一例があったことなどすっかり忘れていた（この件については機会を改めて書かせてもらう）。

会が終わって帰りの電車の中で差別語和名撤廃のことを思い出してみると、どうも納得がいかない。よくよく考えていくうちにこれは政治的な問題のような気がしてきた。これは想像の域出ないが、ある功成り名遂げた広く尊敬を集めている学者先生が「優秀な研究者たるものは人格的にも優れ、人間として最も重要な人権意識を持たねばならない」などという高邁な人権思想に目覚め、ふと気が付くと標準和名にも差別的表現が少なくない、早急に改めるべしーという事になったのではないか。差別が良いなどと考えている人間は殆どいないだろうし、また差別がなくなればよいと思っている人間も大勢いるだろう。だがちょっと待っていただきたい。差別をなくすことと『差別的であると思われる表現』を極力排除しようというのは別問題であり、本末転倒ではないだろうか。

いつの頃からかわからないが、日本では『言葉狩り』つまり『差別語狩り』が横行し始め現在も続いている。『差別的と思われる』表記をやめ、無難な表現または外国语に置き換える類いのものである。近年は女性雇用機会均等法の影響か、「メイドさん」や「エレベーターガール」も差別語ということになったらしい。このような一連の動きに対し作家の筒井康隆氏が断筆宣言をして抗議の意志を表明したのをご記憶の方もあろう。また既にお気づきの方も多いと思うが、10年以上前の時代劇を見ると必ず不自然な音声の途切れ方をすることがある。これは放送する側が意図的に差別的なセリフをカットしているのである。そして昨年のNHK大河ドラマ「元禄猿乱」で「片手落ち」を『片落ち』などという聞き慣れない言葉に置き換えていたのは記憶に新しいところである。このような冷静に見れば奇異に思われるようなことが真剣に行われている事実を『言靈』をキーワードに日本人の国民性、というより宗教的侧面から見事に解説しているのが作家の井沢元彦氏であ

る。井沢氏によると、古代から日本は「言霊のさきわう国」であり、「言擧げ」したら最後その言葉の内容は実現すると信じられて来たという。その名残は現代においても見られ、例えば結婚式で切れる、別れるの言葉は絶対使わないとか、ハイジャック事件等で死者が出る事を想定するようなコメントを発すると、「そのような事を言ってもし現実にならうとするのか」と非難された揚げ句死者が出た場合「あいつが縁起でもない事を言うからだ」と責任を追及されるといった例が示されている。思い当たるフシがある方も多いのではないだろうか。事実「縁起でもない」は筆者もよく使う。「差別語狩り」もこの文脈で説明可能で、要するに『差別的な』言葉をなくせば差別という実体も消えてなくなるという信仰によるものだというのが井沢氏の意見である。しかし冷静に考えれば井沢氏も指摘されているように、上記の言霊信仰は何の科学的根拠もない迷信であり、「差別語狩り」によって差別がなくなる筈もないことは明らかである。仮に当座は良くても差別はより陰湿かつ陰惨になることが予想され（言葉で訴えられない分、より肉体的暴力に訴えることも予想される）、新たな差別語を生み出しさらなる『差別語狩り』が必要になるというイタチごっこになるだろう。問題の本質はそのようなところにないにもかかわらずなぜこんな不毛な事に血道を上げるのだろう。

しかも『差別語狩り』は言論統制になる危険を孕んでおり、明かに言論の自由に反する。筒井氏の断筆宣言の主旨もその点にあると思われる。そして『差別語狩り』には同様の先例がある。それは戦時中軍によって行われた『敵製語禁止』の愚挙である。有名な例では野球の「ストライク 1、ボール 1」を「よし 1 本、ダメ 1 本」と言っていたらしい。今からみれば何をバカなどと思うだろうが、当時の日本人は真剣だったらしい。しかし『差別語狩り』と『敵製語禁止』と一体どこが違うというのか。どちらも言論の自由を侵害し、自由な発想を妨げる点では同じだと思うがどうだろう。『差別語狩り』を熱心に押し進める『進歩的な』（これも差別語か）方々は何より第2次世界大戦中の出来事を憎んでいる筈なのに、意志に反し結果として『敵製語禁止』の愚挙と表裏一体をなすような事に血道を上げるとは皮肉という他ない。また差別語の自粛は昭和天皇が亡くなられた時、誰の命令なのかいつまで続くのかもわからない歌舞音曲の自粛が数日間行われた事にも通じる。

誤解のないようにここで明言するが、筆者は別に差別を肯定するつもりもないし差別主義者でもないつもりだ。勿論他人を誹謗中傷したり、傷付けるような事を言ったり、ましてや肉体的欠陥や出自、国籍などを侮辱するような言葉を吐くのは言語道断である。言葉は使い方次第で凶器にもなりうるし、まして日本は言霊信仰の国であり、言葉には敏感な民族である。使う時には場所柄をわきまえるのは当然のマナーだしこれは何も日本に限らず世界中で通用することかもしれない。だがそれでも場所柄をわきまえて使う言葉を選ぶ事と、存在している言葉を駆逐して訳の分からない造語や無難な表現とやらに置き換える事は本質的に違うのではないか。しかも今回差別語として追放しようとしているものの殆どは最初から特定の人々を差別する目的で作られたものとは思えない。はっきりした基準もなしに差別語の疑いがあるからといっていちいち使用禁止にしていたらキリがないので

ある。言葉にはそれぞれ意味や背景があり歴史を背負っている。それを十分検討することもなくただイメージだけとらえて抹殺することに大きな危惧を覚える。また重ねて言うがこのような本質を無視した不毛な『差別語狩り』は時間の無駄であるばかりか、自由な発想や表現を阻害するという意味では有害でさえある。そのような事は科学的、客観的に物事を考えるのが仕事の研究者諸氏には筆者ごときの指摘を待つまでもなく自明であると思われるのだが、貴重な研究時間を実りのない差別語和名追放などという集団ヒステリーとでも言うべき行為に浪費するのはどうか。揚げ足取りやアラサがしばかりしていると性格まで悪くならないか心配だし（余計なお世話と言われそうだが）、大の大人が額を寄せ合い、口角泡を飛ばしながら「チビはいかん。ゴミもいかん」などと言い争う光景は想像しただけで滑稽でもある。とは言ってもこれは時代の流れでどうしても差別語和名追放をしなければならないと言うのであれば筆者のような一般人は方針に従わざるを得ないだろう。そして昆虫で差別語和名追放が始まれば、クモだけやらないというわけには（この日本ではとくに）おそらくいかないだろう。

筆者の意見としては反対だが、もし賛成派が押し切って差別語和名追放が決まれば公式な報告や文章には新しい方を用い、日常的には古い使い慣れた和名を使うだろう。たとえ無意味とはわかってはいても、その時の都合や時代の流れ或いはイデオロギーの押し付けによって和名を変更されてもはっきり言って使う方は迷惑だし、覚え切れる自信もない。できれば混乱を招くような和名の変更はやめるか、もしあっても最小限にしてほしいものだ。（つづく）

#### イソウロウ・コラム v. 6

##### クモ映画「スパイダーズ」公開！！

最近なかったクモ映画が公開されました。とはいえた東京・新宿の単館上映の21:00から のレイトショー、さらに6/24～7/6たったの 13日の公開日数！2週間もやらない、何たる 扱いの悪さですね。

内容は宇宙人のDNAを注入されたクモ が宇宙飛行士に寄生して帰還。巨大化して政 府の極秘施設から町へという話。模型とCG を組み合わせたクモ映像です。水平円網を張 ってみたり、超スピードの走りを披露したり。

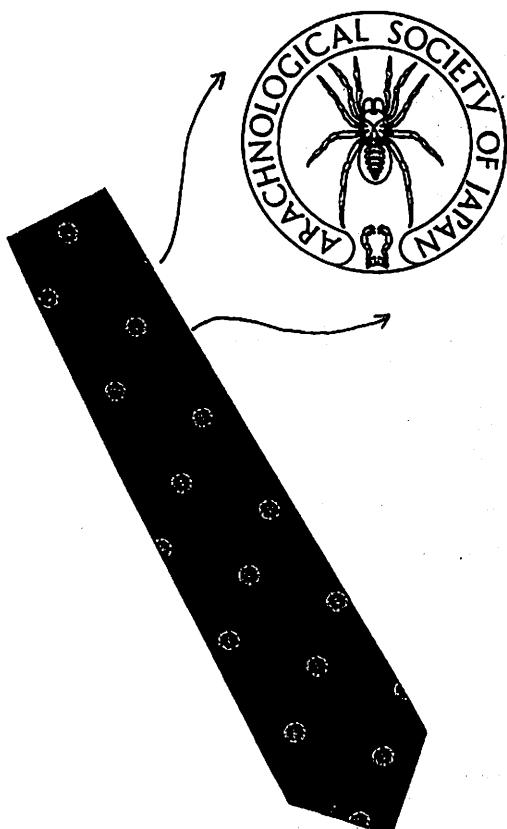
ということですが、私は見損なってしまいま した。どなたかご覧なった方はいるでしょうか？



(Fangoria no.194より)

（原題「Spiders」 2000年米映画・94分・ピスタサイズ  
ケーリー・ショーンズ監督 出演 ティ・パリーラ、ショーン・グリーンほか）

# 日本蜘蛛学会60周年記念ネクタイ 通信販売します。



この日本蜘蛛学会のマークが

並んでいます。

色違い3種

A  
B  
C

えんじ 白色マーク  
紺 白色マーク  
紺 赤色マーク

価 格

1本どちらでも	4,000円
2本どちらかで	7,000円
3本まとめて	9,000円

送 料	
1本	140円
2本	160円
3本	240円

綿100%

日本製

②売り上げの「純益」は日本蜘蛛学会に入ります。

ご注文は下記の郵便振替口座へ、ご希望のネクタイの種類の記号と本数を明記の上、送料とともに代金ご送金ください。入金確認後（1週間程度）、発送します。

日本蜘蛛学会 00970-3-46745

問い合わせは

笹岡文雄まで。（東京都豊島区北大塚3-12-21 Tel 03-3918-1945）

※※※ 事務局だより ※※※  
◇会員異動 (2000年4~8月)

退会

(希望) 萩島久子、高田 勝、中平 清、蓮沼克己

入会

小川智行: 〒263-0054 千葉県千葉市稻毛区宮野木1652-45

土屋昌利: 〒243-0413 神奈川県海老名市国分寺台5-4-34

◇住所変更

北島 博: 〒860-0862 熊本県熊本市黒髪4-11-16

森林総合研究所九州支所昆虫研究室

木村知之: 〒192-0917 東京都八王子市西片倉2-6-16 ラベニール210

(敬称略)

会費が値上げになりました

2000年度より、一般￥3,800になりました。ただ1999年度以前の会費は￥2,800のままであります。合わせて納金の方はお間違えのないようにお願いします。「通信」封筒、宛名の下の納入状況をご確認下さい。

尚、学生会費は￥2,000のまま据え置きです。

会費についてのお問い合わせは、下記まで。

会計担当: 安田明雄 〒226-0011 神奈川県横浜市緑区中山町329-1  
中山駅前ハイツ1-506 (Tel 045-934-9210)

郵便振込口座番号 東京蜘蛛談話会 00170-8-74885

談話会通信について

1. 会の催しの告知など、会員の皆さんへの種々の連絡を主な目的としています。
2. クモと蜘蛛類（サソリ、カニムシ、ザトウムシ等）すべてに関して、「Kishidaia」誌ほど専門的ではない文章を掲載します。また関連する新聞雑誌等の記事の紹介も行います。
3. 単年度最低3回の発行を基本としています。  
①その年度の1号目の発行日は5月第3または第4日曜日  
    2号目の発行日は9月第3日曜日  
    3号日の発行日は2月第1日曜日
- ②各号の投稿締切は、1号目は4月末日、2号目は8月末日、3号目は12月末日です。
4. 締切を過ぎた投稿は次号以降の掲載になります。
5. 投稿は内容によって「Kishidaia」誌に転載をお願いすることがあります。
6. 投稿原稿および新聞雑誌等の切り抜き記事は原則お返ししません。
7. 新聞雑誌等の切り抜き記事は原則「付録」に掲載します。また投稿締切と関係なく掲載は不定期になります。

次号 101号 原稿締切は12月末日です。

談話会 1974・5・12・八王子城跡

通信

1モ採集・観察会報告

1974・5・13

東京懇談会談話会

1974年3月17日、小野・山川両君と、採集観察会の予定日を、又、場所を討議したところ、高雄山の名からかうたが、結局八王子城跡となりた。この採集・観察会は、選ばれ否も、年に数回やうといつてなかなか実現出来ないついたこと2、念願のものだった。「5月12日、八王子城跡」と決定し、会員へ通知(4月19日)。

萱嶋先生からもいわれおり、会の目的をもって、底辺の広大ということと、朝日新聞社に、4月25日、この採集・観察会について、掲載を依頼したところ、4月30日に、向合せの電話があり、各事項について、石屋認した後、1日か2日の割合で掲載される旨、書かれていた。浦和の方では、翌日の朝刊17面の「多摩版」に、「私の身辺メモの本欄近くに、掲載された。これに気がつくして、模造紙半切の不スターを高雄・八王子駅には、もうおこうとしたところ、八王子駅では、貼る場所からなるの?」、翌日、屋内に来て、何といふのかと、昼間はどちらも動移があるの?」、ついそのままになってしまった。また、高尾駅では、模造紙半切だと、1日100円。(1週間単位で100円といったか)かかるの?、との日は、そのままで、後日、「といった」新海・山川両君と共に、高尾駅に行ったり、30分も待たせた。なぜ、「今日は忙がしいから、明日屋内ぞくくれ」とのこと。しかたなしに、石利た。掲載依頼とその期日を尋ね?、不スターと一緒にあひこはどうしたらいいかも、それだけ、ことわらせてほった。ことわらした

この日は、5月8日。

この向に、一般の方にもよびかけたのだから、集合場所がわかるようにと、旗を作った。旗のデザインは、すみ本かし、新海君、萱嶋先生にも相談したところ、すみ本だから、草門家小次氏の意見を聞くようになり、華美と相談。7日前の後、萱島から返事かとどき、金剛屋中の矢の団や、コガネイモなら、黄と黒の横で、でもコガネイモと喰えられ、再び萱嶋先生新海君と相談の結果、デザインを決定。(失業上りのものは、シカ、地味すぎた)。

そして当日、10時集合があったが高尾駅南口については、9時20分、みどりいたつと、8時半に着いた人がいた。その人の名は大川慧子氏。(高尾?)意外と近かったのです。) 9時45分と集まり、出発時間までに、予定の方々が、全員と3,7,10時34分、造形大学行バスにのり、終点まで40円をはらう、おしゃべりをはじめた。

新聞をみて、参加して下さった方は、何人のちつとしたきっかけ?、大嫌いな1モカ・大好きになったといふ、オム戸からいらした、佐野千恵子氏と、子息のアツシ君、ユースホステルを経営なさって、多くの観察会に参加、また、自身でも、催しを計画されると、岸野幸雄氏、岸野氏からまで参加された。革立子氏の4名だった。新聞に掲載したのは、正解だった。

1974.10.25

No. 1.

東京森林談話会

アンケートの集計報告をお届けしたところ、早速、古内栄一氏より便りがありました。無断で、古内氏婦には「無れか」と鬼いますが、1部を掲載して、古内氏の近況を紹介したいと思います。このような連絡が、会員の方々の活動力をより活発にするものと信じています。

「手紙と通信受けとりました。当方あまりにも自然が「過ぎて」どうして良いやら判らずで、結局何もまとまらないのが実情です。目下は、そこから大分離れてしまっているのですから、基礎はそこにある。植生調査と、その復元について行政関係者と仕事を始めているところで、自然破壊をどう止め、破壊したのをどうして復元し、又、復元指導していくか;またいかにして自然保護の思想を広め、一般に理解させたらいいか。を学校の授業の合間にやりますので、その余裕がなくなりました。山へ出る度に、そこ出会い、「これも見たことないなー」と思っても、捕えている時間がなくて、ついそのままになってしまっています。

ついで、「これから連絡紙の別名は別に不用ですか、KISHIDAIAでよいと思います。勇担にならないようにやって下さい」

(1974.10.3 古内栄一)

## News

ニュースというにふさわしいものありますか。去る8月25・26日、東亞林学会第6回大会が日本林学教育研究所で開催されました。前日に行なわれた、希望者によるエクスカーション(?)、「トリノニタマンと観る会」と共に盛会でした。また、期間中の文南犬展示即売や、日本肉保の7毛学者の肖像写真展示を好評でした。

講演内容について、おどろいたことと、確認をせられたこととかあります。千葉市立荒川のヤハズハエトリ、オスカロハエトリの問題と、石野田辰夫氏の16mmフィルムで紹介されていた、アシフトヒメグモの生態です。宮崎県青島で撮影されたものとのことで、「ああ、アシフトヒメグモか」花粉を数個口にくわえ、「わざわざ花の中にくわえて、くわえて来るの?」と、ぐぐぐさせているフィルムです。元来、肉食と考えられていたグモが、実験では、花粉を口にしているのです。このアシフトヒメグモが花粉をくくくくせする習性は……、食べているのか、あるいは、別のことをのか……、を追いかけてます。どこに? といふアシフトヒメグモの習性をつづる。重大な課題のように思われます。

